

9 自分の仕事と他人の仕事

ところで、企業にはいろいろな部門があり、多くの人が働いています。製品を開発する部門もあればそれを製造する部門、あるいは販売する部門もあります。さらに人事とか経理といったいわゆる間接部門もあります。そういういろいろな部門の一人ひとりの働きが総合されて、企業全体としての成果となってあらわれてくるわけです。そして、そのような総合された成果が社会にとって役立つものであってこそ、はじめて事業が成り立ち、私たちも毎月の給料を手にすることができるわけです。

ですからそのためには、それぞれの部門の、さらには一人ひとりの働きというものが、それにふさわしいものでなくてはなりません。かりに私たちが技術部門で働いているとして、熱心に研究し、他にないいい製品を開発したとしても、製造部門にミスが出て不良品が続出したなら、私たちのせっかくの努力も実らなくなってしまいます。あるいは私たちが製造部門にいて、心を込めて立派な製品をつくったとしても、販売政策が当を得なくて、それが売れなかったということもあるかもしれません。

そのように、私たちがどんなに一所懸命いい仕事をして、他の人がやるべきことを怠ったり、私たちの働きを殺してしまうような仕事のしかたをしたとすれば、私たちの働きも生きず、したがってまた企業全体としての成果もあがらない、それで本来得られるはずの給料も得られなくなってしまうといったことも考えられます。もちろんその反対に、他の人が誠実に自分の仕事を遂行しているのに、私たちがそれに反するようなことをすれば、やはり全体として世間に受け入れられるようないい仕事はできないということにもなってしまいます。

企業といわず、組織体においては、そのように一人ひとりの仕事が密接につながり合い、補い合っています。だからこそ、一人ひとりがそれを怠りなくやっていくことが大切で、そうしてはじめて消費者にかぎらず世の人びとの生活も向上し、私たちもまた給料を得て暮らしていくことができるのです。

10 税金は何のためにある？

このように、今日の社会では、企業がいろいろな物資の生産を分業して行い、そしてそれを売買することでお互いの生活に必要なものを供給しあっています。いい換えれば、数多くの企業があたかも一つの組織の一部であるかのように助け合い、支え合ってこの社会は成り立っているわけです。

しかし社会のような大きな組織ともなると、どうしてもそれにふさわしい調整役が必要となってきます。そうしないと、社会全体が混乱し、うまく機能しなくなるからです。この社会の調整役、それがいわゆる政治とか行政であり、それにたずさわる公務員の人びとなのです。



つまり、かりに10人なら10人の人がそれぞれ個々にいろいろな物資の生産にたずさわっているという場合、そこにそれぞれの仕事の調整役というか、全体の運営がバランスよく円滑にいくようにしていく世話役というようなものが必要になってきます。そこで10人の中から1人を選んで、その人にはもうものをつくる仕事はやめて、全体の世話役の仕事をしてもらう、そのかわりにその人の生活は残りの9人でその収入の一部を出し合って負担していこうというふうになる。つまり、それが政治、行政であり、公務員なのではないでしょうか。

